

環境経営レポート



対象期間：2023年1月～2023年12月

2023年度版



株式会社北偉工業

2024年8月20日発行

目 次

1	組織の概要	...	1
2	対象範囲	...	3
3	環境経営方針	...	4
4	環境経営目標	...	5
5	環境経営計画と取組状況の評価	...	7
6	環境経営目標の実績とその評価	...	8
7	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	...	11
8	代表者による全体評価と見直しの結果	...	11
9	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	...	12

1 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社 北偉工業

代表者 代表取締役 北澤 昂也

(2) 所在地

本社・資材置き場 〒950-0802

新潟市東区一日市180番地9

TEL : 025-378-6385

FAX : 025-378-6384

長岡営業所

〒940-0871

長岡市北陽2丁目14番地31

TEL : 0258-22-7750

FAX : 0258-84-7506

(3) 環境管理責任者名及び連絡担当先

環境管理責任者 代表取締役 北澤 昂也

連絡担当者 太田 佳代子

TEL : 025-378-6385

FAX : 025-378-6384

E-mail : hokui@hokui-k.co.jp

(4) 事業内容

建設業

(土木工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、
水道施設工事業、石工事業、舗装工事業、管工事業、解体工事業)
産業廃棄物収集運搬業

(5) 事業の規模

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
産業廃棄物収集運搬量	t	1,770	1,844	1,169
工事件数	件	490	546	471
従業員数	人	27	25	25
売上高	百万円	349	351	483
事務所床面積	m ²	140	140	160
資材置場面積	m ²	1,734	1,734	1,734

(6) 資本金

2000万円

法人設立年月日

平成5年7月1日

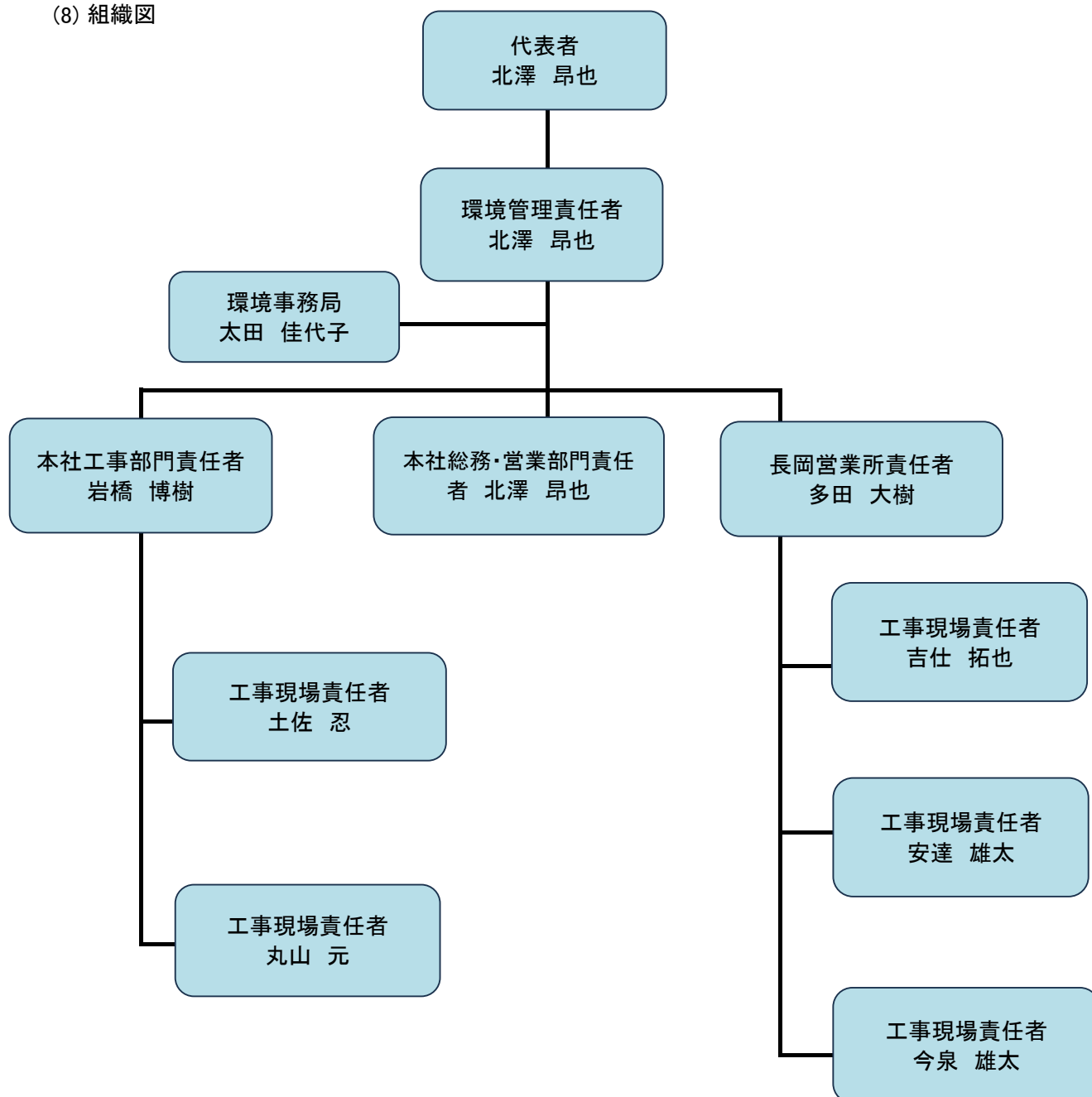
(7) 環境負荷の実績(全社)

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
電力使用量	kWh	8,278.0	9,072	9,866
化石燃料 使用量	ガソリン	ℓ	14,118.2	11,750
	軽油	ℓ	68,457.0	53,778
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	213,961	171,057	221,977
水資源投入量	m ³	72	63	115

・購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度東北電力㈱の調整後排出係数0.522kg-CO₂/kWhを使用

・長岡営業所は関連会社の一室を借用のため、電力使用量、水使用量は集計していない。

(8) 組織図



(9) 事業の許可概要

(ア) 建設業の許可内容

許可区分	許可番号	許可の有効期限	建設業の種類
特定建設業	(特—5) 第42992号	令和5年7月25日から 令和10年7月24日まで	土木工事業、とび・土工工事業、 鋼構造物工事業、水道施設工事業、 石工事業、舗装工事業
一般建設業	(般—5) 第42992号	令和5年7月25日から 令和10年7月24日まで	管工事業 解体工事業

(イ)産業廃棄物収集運搬業の許可内容

◇事業の基本計画

産業廃棄物収集運搬業については、新潟県内において、主に建設産業廃棄物排出者の委託を受け、車両 6台を用いて収集運搬を行う。これらの実施に当たっては、廃棄物処理法を遵守し行う。

◇産業廃棄物収集運搬業

許可区域 (許可)	許可年月日	事業の範囲
	許可有効期限	
	許可番号	
新潟県 (産業廃棄物 収集運搬業)	令和5年7月25日	収集・運搬(積替え・保管を除く。) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類(以上、石綿含有産業廃棄物を除く。)、金属くず(以上、水銀使用製品産業廃棄物を除く。)
	令和10年7月28日	
	01508171981	

◇産業廃棄物収集運搬業事業の用に供する全ての施設

運搬車両の種類	台数	運搬品目
ダンプ	6台	上記事業の範囲に記載した品目

2 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

全組織・全活動をエコアクション21の活動の対象とする。

(2) 環境経営レポートの対象期間及び発行日

対象期間 2023年1月～2023年12月

発行日 2024年8月20日

3 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

株式会社北偉工業は、「社会への貢献を通じて全社員の幸福を追求する」を企業理念とし、信頼される水道工事業、土木工事業を通じ、快適で安全な生活環境の創造に貢献するとともに、地球環境の保全に役立つ活動を以下の活動方針に基づき実践します。また経営における課題とチャンスを踏まえ環境経営の継続的な改善に努めます。

活動方針

- 1 省エネルギー、省資源を進め、二酸化炭素の排出量の削減に努めます。
- 2 建設産業廃棄物の再資源化を進めます。
- 3 一般廃棄物の排出の抑制を進めます。
- 4 節水を進め、水資源の保全に努めます。
- 5 環境関連法規を遵守します。
- 6 建設資材の適正な使用と在庫管理を進め、無駄を省きます。
- 7 環境経営方針は、全社員に周知し、自己啓発に努めます。

2022年4月28日

株式会社北偉工業

代表取締役 北澤 昂也

4 環境経営目標

2023年1月から本社を移転したことから、電力使用量、水使用量、一般廃棄物排出量は実態把握の上で目標設定することとした。
2022年度～2024年度までの中長期(3年間)の環境経営目標を本社、本社及び長岡営業所について下表のとおり定めました。化石燃料使用量は、工事業務量に応じて変動することから、売上高100万円当りの使用量を指標とする原単位により目標を定めています。

中長期の環境経営目標（2022年度～2024年度）（本社）

項 目			単位 又は区分 (年間値)		基準年実績(2021年度)		環境経営目標(基準年比削減率%)								
					原単位又は実数		2022年度			2023年度			2024年度		
					上段:1月～12月 下段:5月～12月 〇内は実数		2022年5月 ～2022年12月			2023年1月 ～2023年12月			2024年1月 ～2024年12月		
					売上高:百万円										
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料の削減	ガソリン	ℓ	売上高百万円当り	40.46	(14,118.1)	53.09			39.65			39.24		
					53.63	(10,378.3)									
		軽油	ℓ		196.2	(68,457.0)	247.98			192.25			190.29		
					250.5	(48,475.8)									
	計	二酸化炭素排出量	kg-Co2		613.1	(213,960.6)	777.6			実態把握			実態把握		
					785.4	(152,001.6)									
							△	1	%						

※長岡営業所は、昼間は始業時以外は無人で関連会社の一室を借用しているこのため、水使用量及び一般廃棄物の集計はしていない。

※再資源化率は、年度ごとに排出される品目により変動するため、99%以上の維持を目標とする。

※PRTR法に基づく指定化学物質の使用はありません。このため、化学物質の削減目標は設定していません。

(購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度東北電力㈱の調整後係数の0.522kg-CO₂/kWh)を使用。

中長期の環境経営目標（2022年度～2024年度）（長岡営業所）

項 目			単位 又は区分 (年間値)		基準年実績(2021年度)		環境経営目標(基準年比削減率%)			
					原単位又は実数		2022年度	2023年度	2024年度	
					上段:1月～12月 下段:5月～12月 ()内は実数		2022年5月 ～2022年12月	2023年1月 ～2023年12月	2024年1月 ～2024年12月	
					売上高:百万円					
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料の削減	ガソリン	ℓ	売上高百万円当り	25.50	(4,893.6)	29.15	24.99	24.74	
					29.44	(3,554.2)				
		軽油	ℓ		266.2	(51,084.3)	315.41	260.91	258.24	
					318.6	(38,464.4)				
	計	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂		746.0	(143,150.7)	881.4	731.1	723.7	
					890.3	(107,484.1)				
								△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
								△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %

※長岡営業所は、昼間は始業時以外は無人で関連会社の一室を借用している。このため、電力、水使用量及び一般廃棄物の集計はしていない。また当該項目の目標は設定しない。

※長岡営業所は、資材・在庫は少なく、資材・在庫の管理に關す目標は設定しない。また、現在ほぼ下請工事で自社の産業廃棄物の排出がないので産業廃棄物の再資源化に係る数値目標は設定しない。

中長期の環境経営目標（2022年度～2024年度）（本社）

項 目			単位 又は区分 (年間値)		基準年実績(2021年度)		環境経営目標(基準年比削減率%)				
					原単位又は実数		2022年度		2023年度		2024年度
					上段:1月～12月 下段:5月～12月 ()内は実数		2022年5月 ～2022年12月		2023年1月 ～2023年12月		2024年1月 ～2024年12月
					売上高:百万円	157.08 72.8					
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量		kWh	売上高百万円当り	52.70	(8,278.0)	72.07	実態把握	目標設定 目標管理		
					72.80	(5,300.0)					
										△ 1 %	
	化石燃料使用量	灯油			0.681	(107.0)	0.490	0.668	0.661		
					0.495	(36.0)					
						△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %			
		ガソリン			58.72	(9,224.5)	92.80	57.55	56.96		
					93.74	(6,824.1)					
						△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %			
		軽油			110.6	(17,372.7)	136.14	108.39	107.28		
					137.5	(10,011.4)					
						△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %			
	計	二酸化炭素排出量			450.8	(70,809.9)	605.4	実態把握	目標設定 目標管理		
					611.5	(44,517.5)					
							△ 1 %				
	水使用量の削減				m ³	72.0		49.8	実態把握	目標設定 目標管理	
50.0											
						△ 0.5 %					
一般廃棄物排出量の削減(可燃物)			kg	120.0		実態把握	実態把握	目標設定 目標管理			
建設廃棄物の再資源化率の向上			%	99		99	99	99			
						△ 0 %	△ 0 %	△ 0 %			
資材・在庫の適正管理			点検評価点数	1.6		実態把握	1.7	1.8			
							+ 0.1	+ 0.2			

※電力使用量の原単位は、全社分は、全社売上高、本社は本社売上高当りの原単位である。

(購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度東北電力㈱の調整後係数の0.522kg-CO₂/kWhを使用。)

※再資源化率は、年度ごとに排出される品目により変動するため、99%以上の維持を目標とする。

※PRTR法制度に基づく指定化学物質の使用はありません。このため、化学物質の削減目標は設定していません。

※一般廃棄物排出量、資材・在庫の液性管理の基準値は2022年5～12月の実績値から設定した。

一般廃棄物は8月間データを年換算し設定した。

5 環境経営計画と取組状況の評価

(1)環境経営計画と取組結果

環境経営目標を達成するため、環境活動内容及びスケジュール等からなる環境経営計画を下記の通り決めました
各活動の項目ごとに実施状況を4か月ごとに点検し、3段階評価で点検した結果の平均値は、下表のとおりです。

※新社屋へ移転し灯油を使用することが無くなりましたので次年度からは活動の内容を節電に組み込みます。

評価基準は、(3:出来た 2:一部出来たが更に努力が必要 1:出来なかった)の3段階評価です。

2023年度環境経営計画と活動状況点検結果並びに次期の取組

項 目		環境活動の内容	総務・営業部門	工務部門	主要な日程	責任者(本社)	責任者(長岡営業所)	総務評価点	工務評価点	長岡評価点	次期の取組
二酸化炭素排出量の削減	エコ安全ドライブの推進	安全運転・エコドライブの周知・指導	○	○	1月	岩橋博樹	多田大樹	3.0	2.3	2.3	継続
		・車両の点検記録の管理	○	○	通年			2.3	2.0	3.0	継続
		・車両の運転記録の管理	○	○	通年			2.0	2.0	2.0	継続
		・安全運転教育の管理	○	○	通年			3.0	2.0	3.0	継続
		・安全運転教育の実施	○	○	通年			3.0	2.3	2.0	継続
	電力使用量の削減	空調管理の適正化				岩橋博樹	多田大樹				継続
		・冷房設定温度を28℃とする。	○	○	夏季冷房期			0.7	1.0	0.3	継続
		・空調フィルターの定期的清掃。	○	○	年に2回			2.7	2.3	3.0	継続
		・使用していないエリアの空調停止。	○	○	夏季及び暖房期			3.0	3.0	3.0	継続
		・天井照明のこまめな消灯。	○	○				1.0	0.7	1.0	継続
		・不使用場所での消灯(トイレ、倉庫、)	○	○	通年			3.0	3.0	3.0	継続
		・長期不使用時のパソコン・プリンターの電源オフ	○	○	通年			3.0	2.0	1.7	継続
		・昼休み時の消灯の励行	○	○	通年			2.0	2.0	2.3	継続
		・残業時の不要箇所での消灯	○	○	通年			3.0	2.3	2.7	継続
		待機電力の削減									継続
		・使用しないコンセントは抜く。	○	○	通年			3.0	2.0	2.0	継続
		・効率の良い照明器具の採用を進める。(LED)	○	○	次年度(本社)			3.0	2.0	3.0	継続
	化石燃料の削減	灯油の節約				岩橋博樹	—	2.0	—	—	継続
		・暖房の設定温度を20℃に設定する。	○		冬季暖房期			3.0	—	—	継続
		・不要箇所での暖房を停止する。	○		冬季暖房期	岩橋博樹	多田大樹	3.0	2.3	2.3	継続
		エコドライブの周知	○	○	1月						継続
		エコドライブの実践						3.0	2.0	2.3	継続
		・急発進、急加速を避ける。	○	○	通年			3.0	2.0	2.3	継続
		・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	○	○	通年			3.0	2.3	2.3	継続
		・一定速度の走行をする。	○	○	通年			3.0	2.3	2.0	継続
		・経済速度での走行をする。	○	○	通年			3.0	3.0	1.7	継続
		・不要なアイドリング運転を防止する。	○	○	通年						継続
		重機のエコ運転の実践						—	2.0	2.3	継続
		・急発進、急加速を避ける。	○	○	通年			—	2.0	2.3	継続
		・油圧シャベルの旋回角度を小さくして運転できるような車を配置する。		○	通年			—	2.0	2.3	継続
		・エンジン回転を控えた省エネ運転に心掛ける。		○	通年			—	2.0	2.0	継続
		・一度ではなく、上から掘削する。		○	通年			—	2.3	1.7	継続
		・不必要な高エンジン回転を避ける。		○	通年						継続
		日常整備						2.0	2.7	2.3	継続
		・タイヤ圧を適正に保つ。	○	○	通年			2.0	2.7	2.3	継続
		・エンジンオイルは適正に管理する。	○	○	通年			2.3	—	—	継続
水使用量の削減		・節水啓発ステッカーを掲示する。	○		通年	岩橋博樹	多田大樹	1.0	—	—	継続
		・洗車はストップバルブ付きのホースを用い行う。	○		通年			1.0	—	—	継続
		・節水付き蛇口を導入する。	○		通年			2.3	—	—	継続
		・水の出し放しをしない。	○		通年			2.7	—	—	継続
		・水漏れを点検し、水漏れを修繕する。	○		通年			2.0	—	—	継続
一般廃棄物の削減(可燃ごみ)		・縮小印刷・ミスの抑制等によるプリンター用紙の節減	○		通年	岩橋博樹	多田大樹	2.3	—	—	継続
		・使用済み封筒の再利用	○		通年			3.0	—	—	継続
		・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	○		通年			—	2.3	2.3	継続
建設廃棄物の再資源化の推進		・分別を徹底し、リサイクル量を多くする。		○	通年	岩橋博樹	多田大樹	3.0	2.0	2.3	継続
		・資材の適正調達による残量の減量化を図る。	○	○	通年			—	3.0	2.3	継続
		・発注者の指示に従い、リサイクルを徹底する。		○	通年			—	3.0	2.3	継続
		・廃棄物置場の管理を適切に行う。		○	通年			—	2.0	2.0	継続
資材・在庫の適正管理		・物品の定位置活動を進める。		○	通年	岩橋博樹	多田大樹	3.0	2.3	2.7	継続
		・5S活動を進める。		○	通年			—	2.0	2.0	継続
		・無駄な発注をしない。	○	○	通年			—	2.0	2.0	継続
		・定期的に資材管理状況を点検する。		○	通年						継続

3→できた 2→できたが努力が必要 3→できなかった

6 環境経営目標の実績とその評価

(1) 環境経営目標の達成状況

全社、本社及び長岡営業所における2023年1月から同年12月の1年間の環境経営目標の達成状況は下表のとおりです。

ア 全社

全社の環境経営目標は、二酸化炭素排出量の削減及び二酸化炭素排出源となる各エネルギー使用量について設定しました。その達成状況は、ガソリン、軽油、二酸化炭素排出量の各原単位目標を達成することができました。

環境経営目標の実績（2023年1月～2023年12月）（全社）

項 目			単位 又は区分 (年間値)		基準年実績(2021年度) 原単位又は実数		環境経営目標	実績	環境経営目標の 達成状況 ○:達成 ×:未達成
					1月～12月 ()内は実数		2023年1月 ～2023年12月	2023年1月 ～2023年12月	
					売上高:百万円	348.96	基準年比削減率%:△、増加率%:▲		
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料使用料	ガソリン	ℓ	売上高百万円当り	40.46	(14,118.1)	39.65	27.54	○
						△ 2 %	△ 31.9 %		
	軽油	ℓ	196.2		(68,457.0)	192.25	148.98	○	
					△ 2 %	△ 24.06 %			
	計	二酸化炭素排出量	kg-Co2		600.0	(209,373.1)	588.0	458.8	○
						△ 2 %	△ 23.5 %		

※長岡営業所は、昼間は始業時以外は無人で関連会社の一室を借用しているこのため、水使用量及び一般廃棄物の集計はしていない。

※再資源化率は、年度ごとに排出される品目により変動するため、99%以上の維持を目標とする。(本社も同様)

※全社・本社・長岡営業所ともにPRTR法に基づく指定化学物質の使用はありません。このため、化学物質の削減目標は設定していません。

(購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度東北電力㈱の調整後係数の0.522kg-CO₂/kWh)を使用。(本社も同様)

イ 本社

本社の環境経営目標の達成状況は電力、灯油、ガソリンの使用量の各原単位目標、二酸化炭素排出量の原単位目標の目標は達成することができました。

軽油使用量は目標達成することできませんでした。閑散期の4月から6月もコンスタントに工事があった事と、重機を使用する割合が高い工事が多かった為、増加した事が原因と推測されます。資材・在庫の適正管理についての環境経営目標は達成することができました。

電力使用、二酸化炭素排出量、水使用量の削減及び一般廃棄物排出量の削減は新社屋の移転に伴い拠点が一本化されたため実態把握を行い2024年度から目標を設定しなおして活動を行います。

灯油に関しては新社屋では使用する必要がなくなったので次年度からは廃止します。

環境経営目標の実績（2023年1月～2023年12月）（本社）

項 目			単位 又は区分 (年間値)		基準年実績(2021年度) 原単位又は実数		2023年度経営目標	2023年度実績	環境経営目標の 達成状況 ○:達成 ×:未達成
					1月～12月 ()内は実数		2023年1月 ～2023年12月	2023年1月 ～2023年12月	
					売上高:百万円	157.08	基準年比削減率%:△、増加率%:▲		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量		kWh	売上高百万円当り	52.70	(8,278.0)	実態把握	34.32	○
								%	
	化石燃料使用量	灯油	ℓ		0.681	(107.0)	0.668	0.327	○
							△ 2 %	△ 52.0 %	
		ガソリン	ℓ		58.72	(9,224.5)	57.55	32.56	○
							△ 2 %	△ 44.6 %	
		軽油	ℓ		110.6	(17,372.7)	108.39	118.42	×
							△ 2 %	▲ 7.1 %	
	計	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂		450.8	(70,809.9)	実態把握	399.8	○
						%			
水使用量の削減			m ³	72.0	実態把握	115.0	○		
						%			
一般廃棄物排出量の削減(可燃物)			kg	120.0	実態把握	189	○		
						%			
建設廃棄物の再資源化率の向上			%	99	99	99	○		
					△ 0 %	△ 0 %			
資材・在庫の適正管理			点検評価点数	1.60	1.7	2.17	○		
					+ 0.1	+ 0.57			

※電力使用量の原単位は、全社分は、全社売上高、本社は本社売上高当りの原単位である。

※一般廃棄物排出量、資材・在庫の液性管理の基準値は2022年5～12月の実績値から設定した。

一般廃棄物は8月間データを年換算し設定した。

ウ 長岡営業所

長岡営業所の環境経営目標は、車両及び重機の稼働に使用するガソリン及び軽油使用量の原単位目標並びにガソリン・軽油に由来する二酸化炭素排出量の原単位目標を設定しました。ガソリン、軽油使用量及び二酸化炭素排出量に係る環境経営目標を達成することができました。

環境経営目標の実績（2023年1月～2023年12月）（長岡営業所）

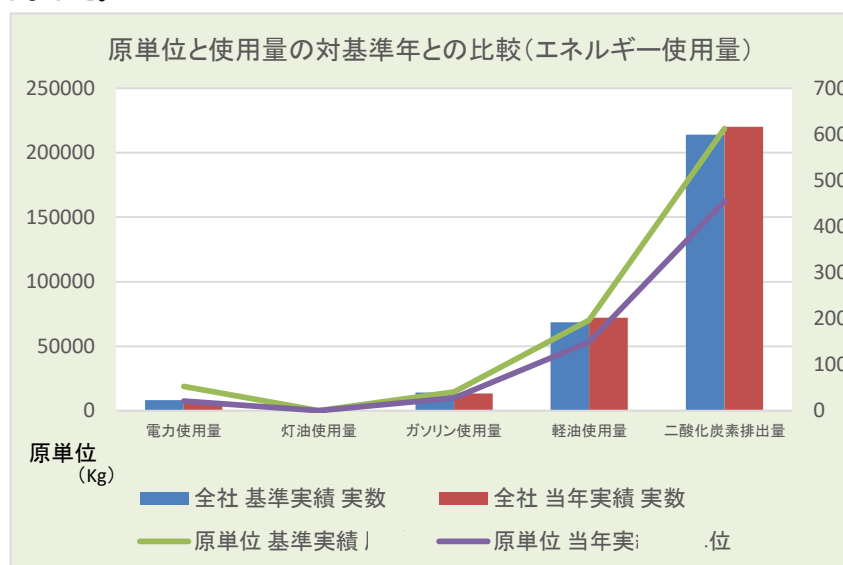
項 目			単位 又は区分 (年間値)		基準年実績(2021年度) 原単位又は実数		2023年度経営目標	2023年度実績	環境経営目標の 達成状況 ○:達成 ×:未達成
					1月～12月 ()内は実数		2023年1月 ～2023年12月	2023年1月 ～2023年12月	
					売上高:百万円	191.88	基準年比削減率%:△、増加率%:▲		
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料の削減	ガソリン	ℓ	売上高百万円当り	25.50	(4,893.6)	24.99	20.30	○
						△ 2 %	△ 20.40 %		
	軽油	ℓ	266.2		(51,084.3)	260.91	193.83	○	
						△ 2 %	△ 27.2 %		
計	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	746.0	(143,150.7)	731.1	546.5	○		
					△ 2 %	△ 26.7 %			

※長岡営業所は、昼間は始業時以外は無人で関連会社の一室を借用している。このため、電力、水使用量及び一般廃棄物の集計はしていない。また当該項目の目標は設定しない。

※長岡営業所は、資材・在庫は少なく、資材・在庫の管理に関する目標は設定しない。また、現在ほぼ下請工事で自社の産業廃棄物の排出がないので産業廃棄物の再資源化に係る数値目標は設定しない。

(2) 達成状況の評価

売上高100万円当りの電力使用量、ガソリン使用量、軽油使用量及び二酸化炭素排出量の各原単位の目標値と実績の比較を下図に示しました。ガソリン、軽油及び二酸化炭素排出量については全社の原単位、電力については本社の使用量とその原単位を示します。軽油使用量と二酸化炭素排出量は基準年実績に比べ増加しましたが、電力使用量及びガソリンは、使用量は減少しています。対象期間の売上高は、全社で39%の増加、本社で83%の増加がありました。軽油については使用量が増加しましたが本社原単位は7.1%の増加でした。会社の原単位目標は軽油使用量及び二酸化炭素排出量の全てにおいて目標を達成しました。



7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1)環境関連法規等の遵守状況の確認結果

当社が規制対象となる環境関連法令は、下表に掲げる法令です。

上記の環境関連法令について、遵守状況を自主点検した結果、違反はないことを確認しました。

NO	関係法令
1	大気汚染防止法
2	下水道法
3	廃棄物処理法
4	新潟市(県)産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
5	建設リサイクル法
6	家電リサイクル法
7	自動車リサイクル法
8	小型家電リサイクル法
9	新潟市(県)生活環境の保全等に関する条例
10	騒音規制法
11	新潟市(長岡市)火災予防条例
12	フロン排出抑制法
13	道路交通法
14	道路運送車両法
15	オフロード法
16	建設業法
17	石綿障害予防規則
18	一般高圧ガス保安規則

(2)違反、訴訟等の有無

当社は、関係当局から違反などの指摘は、ありませんでした。また訴訟もありません。

8 代表者による全体評価と見直しの結果

(1)全体評価

全社ではすべての目標を達成することが出来た。本社では達成できなかった項目があったので注意しながら活動を続けていく。業務の拡大を目指す、省エネを重視し、環境経営目標の達成を図っていく。今後も安全確保を図り、車両・重機のエコ・安全運転等の活動を全員参加で実施していくこと。また無駄を削り効率的な業務を目指していく。本社は2023年1月に新社屋に移転した。新社屋においても、節電、節水等の活動を従来通り実践していく。

(2)見直しと指示

(ア) 環境経営方針

当期期間において、当社の環境経営を取り巻く諸情勢、事業活動に特段の変化はなく変更の必要性はない。

(イ) 環境経営目標

- ・移転した本社の実態把握を終了したため次年度からの目標値を設定すること。
- ・環境経営目標への意識は社員に根付いてきているが、さらに周知し目標達成への意識を高めていく。

(ウ) 環境経営計画

環境経営計画点検記録で、是正予防措置が未実施の項目があった為、早期に是正措置の対応がとれる対策をおこなう。

(エ) 実施体制

実施体制の見直しを検討する。

(オ) その他の環境経営システム

変更を必要とする事項は、認められない。

9 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

・全社及び長岡営業所の次年度以降の環境経営目標はP5、P6、中長期の環境経営目標(2022年度～2024年度)(長岡営業所)に示したとおりです。

本社については代表者の指示により以下のとおり定めました。

・本社の環境経営目標は、下記事項を目標に取り入れ、下表のとおり定めました。

本社移転に伴う電力使用量、水使用量、一般廃棄物排出量の環境経営目標は2023年度実態把握の結果をもとに、環境経営目標値を設定し、次年度から1%ずつの削減を目指します。

※一般廃棄物排出量は拠点が一括化されたので数量把握するため2023年度も実態把握としました。

※新社屋へ移転し灯油を使用することが無くなりましたので次年度からは活動の内容を節電に組み込みます。

中長期の環境経営目標 (2023年度～2025年度) (本社)

項 目				単位 又は区分 (年間値)		基準年実績(2021年度)		環境経営目標(基準年比削減率%)					
						基準年実績(2023年度)		2023年度		2024年度		2025年度	
						1月～12月		1月～12月		1月～12月		1月～12月	
						原単位又は実数 (売上上段2023年度下段2021年度)		2023年1月 ～2023年12月		2024年1月 ～2024年12月		2025年1月 ～2025年12月	
						売上高:百万円	287.49						
157.08													
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量			kWh	売上高百万円当り	34.32	(9,866.0)	実態把握	33.97	33.63			
							実態把握	△ 1.0 %	△ 2.0 %				
	化石燃料使用量	ガソリン		ℓ		58.72	(9,224.5)	57.55	56.96	56.67			
								△ 2.0 %	△ 3.0 %	△ 3.5 %			
		軽油		ℓ		110.6	(17,372.7)	108.39	107.28	106.73			
							△ 2.0 %	△ 3.0 %	△ 3.5 %				
	計	二酸化炭素排出量		kg-CO ₂		399.0	(114,708.0)	実態把握	395.0	391.0			
					実態把握	△ 1.0 %	△ 2.0 %						
水使用量の削減				m ³	117.6		実態把握	116.4	115.2				
							実態把握	△ 1.0 %	△ 2.0 %				
一般廃棄物排出量の削減(可燃物)				kg	188.7		実態把握	186.8	184.9				
							実態把握	△ 1.0 %	△ 2.0 %				
建設廃棄物の再資源化率の向上				%	99		99	99	99				
							△ 0 %	△ 0 %	△ 0 %				
資材・在庫の適正管理				点検評価点数	1.60		1.7	1.8	1.9				
							+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2				

※電力使用量の原単位は、全社分は、全社売上高、本社は本社売上高当りの原単位である。

(購入電力の二酸化炭素排出係数は、2019年度東北電力㈱の調整後係数の0.522kg-CO₂/kWhを使用。)

※再資源化率は、年度ごとに排出される品目により変動するため、99%以上の維持を目標とする。

※PRTR法制度に基づく第一種指定化学物質の使用はありません。このため、化学物質の削減目標は設定していません。

※新社屋移転に伴い電力使用、二酸化炭素排出量、水使用量、一般廃棄物排出量は2023年度の実績を基準に1年ごと、1%ずつ削減を目標に設定しました。